



# す み れ

題字 北浦 晃氏

第8号  
発行 平成4年3月16日  
発行所 文化女子大学室蘭  
短期大学同窓会  
室蘭市高砂町3丁目11-50  
印刷所 高富印刷株式会社

## イメージアップを

同窓会会長 下沢 和枝

今年もまた、会報で皆様方にお会いできる季節がめぐってまいりました。一年は早いもので、昨年には『来年の会報はもっとよく練りあげて、ああして、こうして』とイメージをふくらませていたのですが、なかなか新しいものを盛沢山にするのは難しいものです。会報で少しづつですが、大学の様子などをお知らせする事ができることはうれしく思います。



学生の手づくりおでんに舌づつみの管理人さん達



ミスコンテストには職員も参加

## 第22回 文大祭をふりかえって

11月2日〜4日の3日間で開催された文大祭は、『ビビッドな生気な娘たち』というテーマどおり、生き生きとした、短大生らしい学園祭として全日程を終了することができました。

11月2日〜4日の3日間で開催された文大祭は、『ビビッドな生気な娘たち』というテーマどおり、生き生きとした、短大生らしい学園祭として全日程を終了することができました。

短大での研究を発表する展示が減少した反面、お祭りしたら、会計の方へご連絡下さい。過年度卒の皆様による終身会費納入の御協力に深く感謝いたします。

## 会計報告

平成2年4月〜平成3年3月末までの会計収支決算は、下記の通りとなりましたので、皆様に御報告いたします。

収入	金額	支出	金額
繰越金	7,393,049	卒業記念品	69,525
同窓会費(保21・教2期)	1,190,000	卒業名簿・会報(印刷)	345,050
同窓会費(過年度卒)	59,000	送料	214,012
バザー売り上げ金	20,400	バザー経費	1,747
		宛名書きその他アルバイト料	13,000
		コピー	2,097
		その他(領収証・御札など)	5,965
(イ) 計	8,662,449	(ロ) 計	651,396
収支差引次期繰越金 ¥8,011,053 (イ-ロ)			

(円)

平成2年4月〜平成3年3月末までの同窓会費収支決算は右記のとおりになりましたのでご承認下さい。尚、ご不明な点などがあります。

(例)保4期 85



文大祭終了後、自治会長の挨拶

ムードを盛り上げる企画としては良かったと思います。ステージ部門のミスコンテストは、最近、女性蔑視の論議を呼んでいる為か、一般市民、マスコミの関心を集める結果となりました。美人の他に、ミス眼鏡等10部門を設立し、各部門のグランプリを審査員と観客の投票で決める方法で行い「単なる美人選びではなく、それぞれの持ち味を生かし、励みになれば」というのが学生側の意見でした。全体の反応は肯定的な意見が多く、大まかな主旨は認められたのではないのでしょうか。近年、学園祭は「主催者側が楽しめれば良い」という学生主体の内容構成に変わりつつあります。そのような現状の中で、自己主張が強く、まとまって一つの作業をする機会が少ない反面、物事をそつなくこなす器用さを兼ね備えた学生達をまとめ、今回の文大祭を成功におさめた自治会役員の方皆さん、本当にご苦労様でした。

教18期 丸山 志乃

## 同窓会バザー

### リースに人気集中

平成3年度、7回目のバザーは11月4日(月)、文大祭一般公開の2日目に開催されました。

例年の袋物の他に、昨年の人気作品はリースと可愛い熊の縫いぐるみでした。

特にリースは、蕨・木の実などの材料集めから製作に至るまで各工程に時間をかけた心のこもった



皆さん買って下さいね(学内ロビーにて)

力作でした。夜8時〜9時までの熱心な作業には胸打たれ、同窓生の家族ぐるみの協力も得て、美しく素晴らしいリースが24個も出品されました。リースの歴史解説書付きで、洒落たシールを貼った包装など細やかな心くばり・抽選などのアイデアも良かったと思います。

毎年協力して下さる人、作品を送って下さる人、会員以外で協力して下さった皆様のお陰で作品は

## 新たな展開を求めて

主事 菊地 敬夫

平成四年三月十六日、第二十二回卒業式が挙行されました。この卒業式に際しては、開学以来多くの困難を乗り越えて、ことしも卒業生を社会に、大学に送ることができたことは、本当に有難いことだと思わずにはおれません。これも皆楽を共にしてきた教職員の方皆さん、絶えることのない支援を続けてくれた同窓会の方々のお陰と、深く感謝しているところです。



主事 菊地 敬夫

ここ三、四年前から本学をとり巻く環境は大きく変化しました。推薦入学でも、これまでの水準では入れないくらい水準が高くなり、学生数も多くなって収容能力はいっぱい、キャンパス

りますので、入試判定はこれまでにない苦労をしています。しかし、これからが試験の年です。十八歳人口は平成四年度をピークに、これからは下降の一途です。短大、大学は、まさに正念場を迎えるわけで、来年以降の入学志願者の行方に注目しているところです。

	平成三年度	平成二年度	平成元年度
売り上げ金	六三、九九〇五〇、五九五	二〇、四〇〇一八、六五三	二〇、五〇〇一九、五〇〇
利益金			

かなり多く、売り上げは表のように過去最高額となりました。

同窓生のつながりと暖かさ・有難さを実感し、皆様に感謝した年でした。御協力有難うございました。これからも協力者の輪を広げ、同窓生との交流を深めていきたいと思っております。

## 水芭蕉

保1期 北村 啓子

石の上には三年とはよく云ったもので、三Kの職業を嫌うこ

世であれば、三年も辛抱すれば、もうこれは表彰ものかもしれない。転職とは云わず「デュウダー」・「とらばあゆ」などと訳のわからぬ表現をされると、後ろめたい感じよりも、現代的、ナウくなってしまふから不思議である。終身雇用、会社に身を捧げたお父さん世代にしてみれば言語道断であるが、欧米のように、キャリアを売り物にし、企業を渡り歩くというのも悪くない考えである。

しかしながら、どんな仕事も身に付かず、糸の切れた麻のようにフラフラとほとんど遊び感覚であるとするならば、悲しい人生である。「仕事」を通して己れを鍛錬し、人間の幅を広げていくものではないだろうかと思うのだが、かくいう私も主婦業を入れて四度目の転職である。どれ一つをとってみても無駄ではなかったし、それがステッピングであったように思う。そして多くの素晴らしい人達と出会えた。私には五度目もあるのかもしれない。



# 新同窓生に一言

各科での専門的知識を身につけ、今年、短大を巣立つ若い人達にお聞きしました。

①入学前の学校のイメージと今は…。

②学生時代の思い出や、印象に残っていることは…。

③卒業後の抱負は何ですか…。

大石 香さん  
保育科



①今から15年前、私は短大の附属幼稚園に通っていました。緑にかこまれ、自然に恵まれた環境の中で育っていききました。短大からは実習生のお姉さんが来ていて、一緒に遊んだことを覚えています。やがて、自分もこの短大に通うようになりまし。入学前から抱いていたあのぼのとしたイメージもそのまま、先生方の雰囲気もとても良く家庭的な感じがします。

②学生時代の一番の思い出といったら、やはりハンドベルをしていたことです。2年間、ハンドベルを通して色々なことを経験しました。一生忘れられない思い出です。

③学生時代に経験した事、感動した事を基に、人の気持ちを考える事のできるやさしさを身につけ、自分らしさを忘れず社会に貢献していきたいと思っています。

山口 律子さん  
教養学科 服飾デザインコース



①北海道ということ、大きな学校かなと思っていました。実際に来てみて、規模的には小さいながらもアットホームな学校だと感じました。

②学校行事の中では、やはり2年次の文化祭です。クラスのみんなが一つになって行うファッションショーが、最高の思い出です。私は責任者をやりましたが、ショーの当日まで色々苦労があったが無事終わった時の満足感やよかったです。と思う気持ちは大きかったです。

③卒業後は東京の文化女子大学への編入が決まっています。自分の興味のある事に積極的に取り組んで

赤石 珠美さん  
教養学科 文学コース



①入学してから全国各地から人が集まっている事に驚きました。私にとっては各地に友人ができ、学

で本当に最後の学生生活を、楽しみたいと思っています。

伊藤知佐子さん  
教養学科 美術コース



①学校のイメージとは、私の場合ずっと色々なみんなと会える所、約束がなくても縁が薄くても会える。この学校の場合、そのみんなの中に、先生も色濃く含まれるという事が、入学前と今のイメージで違う点。

②生活全てが思い出で印象に残る。北海道という土地、ひとり暮らし、行事やイベントは当然で、朝まで連日騒いだり、そういった普段の生活の何気ないことが何よりも心に残っている。そして佳子。

③将来を考えての行動をしつつ、その時にしかできないことと自分がやりたいことをやりのがささいというのが抱負。

早藤 貴子さん  
教養学科 秘書ビジネスコース



①私は地元出身ですがあまり興味を持っていませんでした。実際に来てみて、規模的には小さいながらもアットホームな学校だと感じました。

②充実した2年間でした。書ききれない程たくさんの事がありました。そして色々な人達に出会いました。国際交流も貴重な体験でした。でも一番印象的なのは自治会会長として体育祭や学校祭を成功させる事ができた事です。

③いろいろな事に挑戦していこうと思っています。

昨年末学生の研修旅行に同行しヨーロッパ三ヶ国を旅してきました。私の在学中にはせいぜい一泊のフレッシュマンキャンプとスキー実習ぐらいでした。

さてこの行事は約十年前から東京本学の学生を対象に毎年行なわれ、室蘭からも希望者は参加でき内容は美術史に沿って主都市を訪ね美術館、教会、遺跡等を見て回るものです。今回の日程の半分はイタリア。ミ



パルサイコ宮殿前にて

ハーの私はスペイン広場で、ローマの休日、のヘップバーンを気取りハイポーズ。

記念にとテレビの泉にコインを投げ入れると良く聞く話。一回は再び訪れる事ができ、二回投げると離婚でき、さて三回ではとうとう離婚後に又結婚ができるという都合の良い説明を聞きながら三千年の歴史をもつ永遠の都ローマをはじめ港町ナポリ、そして火山

肌で感じた西洋文化

服8期 米川 久仁子

さで最後は紳士の国イギリス。バックingham宮殿、ロンドン塔、ウインザー城等を見学しましたがどこでもその伝統と重みを感じました。自由行動では真赤な二階建てバスに乗ってみました。このバス、ドアもなければアナウンスもなし。乗客が席に着くと車掌さんがやって来て切符を切ってくれるのですが、それをお客が乗り込む度に一階と二階を往復。この労



ロンドンのさんと

力が無駄とも思える行動を淡々とこなしている姿を見て始めは「あら、まあ」という思いでいたのですが、だんだんと日本はあまりにも合理化し過ぎて大切な何かを捨ててきてしまったのではないかと思わされました。百聞は一見に如かず。わずか二週間でしたが西洋の息づかいを肌で感じる事ができ出かける前は不安でしどろも今では感動にひたりつつ次の計画を練る程になっています。



ロンドンピカデリーサーカス前

## 室私幼二十周年 記念事業に参加して

昨年十一月二十九日、室蘭市私立幼稚園協会創立二十周年を記念し、親と子の集いが室蘭文化センターで開かれました。室蘭市内の幼稚園の先生方によって進められ



たこの集いでは三部構成になっており、一部は先生達の楽しい歌でアニメドレーやハローマイフレンドなど子供達になじみの歌が披露され、二部には「アラジンと魔法のランプ」の舞踊劇、園長先生達による手品、三部には子ども達の世界などの遊戯を踊りました。その中で私は舞踊劇と遊戯に参加し約三ヶ月間、この日に向けて皆と共に練習してきたわけですが当日は沢山の子供達が会場に来てくれ暖かい応援の中で練習した成果を出しきる事が出来たので、フィナーレではとても暖かな気持ちになり大変感動しました。教師にな

り三年目ですが沢山の先輩の先生方と共に同じ目標を持ち、取り組んでくれた事は私にとって大変刺激的で良い体験をさせて頂いたと思います。普段、子供達を指導している私ですが実際にステージの上で立つてみると子供達も発表会などではきつとこの様にドキドキと改めて感じさせられました。これからも子供達の立場に立ち物を見たり考え、大切な子供達と共に成長しながら成長できる教師でありたいと思っています。

保19期 仁科 寿枝

## 編集後記

アメリカへ行く機会があった。英語は中、高、大と8年間人並み程度にやってきたが、会話となると、これはまた別問題である。文節だの、文型だのが先に立



ち、我々の習った英語などというに役立たない。究極的には、英語はことばであり生活そのものである。そこは、人間対人間。話者同志の心のかよい合いで通じるから不思議である。身振り手振りが大活躍なのである。生きた英語とは、こういうものなのであろう。(S)